

(第6条関係)

事業概要書

事業名	現役世代の IT 活用市民参画支援事業
団体名	Code for Matsudo
事業担当課	市民自治課

取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)	<p>少子高齢化が進む社会にあっては税収の減少などにより行政サービスの水準や配分を見直さざるをえず、市民と行政の相互理解や協働の重要性は高まる一方であるが、概して市民側の参画意欲は低調である。中でも現役世代は社会の中核を担う世代でありながら、千葉都民と称されるように職場を中心とした社会にばかり目が行き、地元を目を向ける機会は極めて少ない。</p> <p>豊かな、自分ごととしての地域社会を取り戻すためには、とりわけ現役世代の市民に生活者として自分の街に興味や誇りを持ってもらい、自ら市民活動に参加したり、客観的なデータや事実に基づく合理的な政策判断や提言をしたりすることの意義や楽しさを、ひいては地域社会の中での自分の居場所を実感してもらうことが必要である。</p> <p>現役世代には仕事でワード、エクセル、インターネットなど IT を使いこなしている人々は多い。IT を使うことで仕事だけでなく、地域の課題解決を個人が比較的手軽に支援できる時代になっている。例えば地域の魅力を情報発信したい場合、個人でも手軽に無料のブログや Wikipedia に写真やビデオ付きの記事を書くことができる。あるいは、行政の政策に関心が薄い理由のひとつに情報のわかりづらさがあるとすれば、エクセルを使って数字をグラフで表現するなど、視覚化表現の工夫によってわかりやすさを改善することも比較的容易に行うことができる。下記「税金はどこへ行った」プロジェクトなどはそういった視覚化を市民の手で改善する試みのひとつだ。</p> <p>http://spending.jp/</p> <p>日々の暮らしに忙殺される中ではなかなか地域社会に目を向けるきっかけが無いが、震災時のボランティアなど、何かきっかけさえあれば、社会の役に立ちたいと考える人は少なくない。</p>
事業の目的	現役世代の人々に IT 活用をひとつのきっかけとして市民参画に興味を持ってもらうこと。
事業内容	<p>3種のイベント開催と対話の場としての松戸 IT 円卓会議の設置を提案する。</p> <p>1. 市民 IT カフェ</p> <ul style="list-style-type: none">・ある程度定期的に (例えば毎月第3水曜 19:00-21:00 等) 開催。・松戸市に関わりのある人なら誰でも参加可能。通勤通学帰りにふらりと立ち寄るイメージ。主にインターネットで募集。・このイベントは具体的なアクションに移る前の準備段階。あまりきっちり仕切らず、雑談で終わっても良い。・初めての参加者は自己紹介のあと、この「市民 IT カフェ」がどういう場なのか、IT を活用した市民参画とはどういうことなのか、知っている人に説明してもらう。その後フリーディスカッション。・ある程度慣れてきた人は、松戸市の中で自分の身近にある社会課題等につ

	<p>いて、自分なりの解決案などを参加者どうしで意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度具体的に話を進めたい課題については次のアイデアソンに進む。 <p>2. アイデアソン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何らかの地域課題に対する解決を支援するアイデアをグループでまとめあげるもの。半日～1日かけて開催。 ・事前にテーマを決めて参加者を一般募集。市民 IT カフェの過去の参加者にも告知。性別、国籍、職業などできるだけ多様性のある参加者を集める。 ・必要に応じ、課題領域に関するデータなどを参加者向けに予め準備。 ・当日はまず課題領域に詳しい識者に現状や課題認識について、できるだけ客観的な情報に基づき話してもらう。 ・参加者は上記の話を聞いた後、いくつかのグループに分かれて課題を掘り下げ、解決のアイデアを出し合う。批判はご法度（そういう場ではない）。相手の意見を尊重するのが原則。アイデアは何でもありではなく、IT を直接・間接に活用し、自らが取り組み可能な内容を考える。 ・最後に発表の時間を取り、参加者全員の投票でその順位を決める。 ・(例えば) 上位3アイデアは次のハッカソンに進む。 ・ハッカソンとの連動は必ずしも必須ではなく、ここで出たアイデアをさらに練り上げるアイデアソンを開催しても良い。 <p>3. ハッカソン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアソンで出たアイデアを掘り下げ、課題解決を支援するものとして、出来合いの IT ツールを活用したり、あるいはその場でサンプルアプリを開発したりするもの。参加者を募集し1～2日間で開催。 ・アイデアソンで出た上位3つまでのアイデアを提示し、参加者ごとに参加してみたいアイデアをひとつ選ぶ。 ・アイデアごとにグループを作り、解決策を具体的なソフトウェアやツールに落とし込んでいく。 ・最後に成果物を発表。コンテスト形式にする場合は審査員として関係するステークホルダー、行政職員、有識者などに参加頂く。 <p>4. 松戸 IT 円卓会議（2年目以降の活動の母体）</p> <p>地域課題解決に向けた活動に引き続き意欲のある方向けに facebook 上に松戸 IT 円卓会議を設置し、イベント参加による顔の見える関係を背景に様々な立場で地域課題を客観的に話し合うゆるやかなネットワークの場とする。</p>
協働の必要性	<p>以下の様な部分を協働のパートナーとして行政に期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等の開催場所の提供（市民にとって利便性の良い場所）。 ・課題領域に詳しい担当課もしくは外部専門家の紹介。現時点では未確定。 ・社会課題の現状分析、把握、解決などにおいて必要なデータが入手困難な場合、その提供可否の調整。 ・集客の支援、イベントへの参加、経費負担や賞の提供（賞状等） <p>自団体としてはこの事業を通じて活動に興味を持ってくれる人が一緒に活動してくれる効果を期待している。行政に対しては市民参画に興味を持つ層が増える効果があると考えている。</p>
事業の目標	<p>イベント開催数:8(市民 IT カフェ:6、アイデアソンまたはハッカソン:2) イベントへの参加者数：累計 100 名、松戸 IT 円卓会議への参加者数：20 名</p>

(第6条関係)

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 92,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 11,000	
	自己資金の合計額 (B)	¥ 11,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 95,000	
	合計額(D) = (B+C)	¥ 106,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 50,000	イベント外部講師謝礼 25,000円×2日
	消耗品費	¥ 8,000	模造紙、マジックペン、 名札等 1,000円×8回
	使用料	¥ 12,000	イベント会場使用料 500円×2時間×6回 500円×6時間×2回
	賃借料	¥ 20,000	プロジェクタ wifiルータ 500円×8回 1,000円×2台×8回
	食糧費	¥ 16,000	イベント参加者向けお茶 菓子 2,000円×8回
	対象経費の合計(E)	¥ 106,000	
(その他 対象外) 経費	食糧費		
	交通費		
	その他経費の合計額(F)	¥ 0	
	合計額(G) = (E+F)	¥ 106,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	企画打合せ	24,000 円	3 人 × 2 h × 8 回 × 500 円
	イベント準備	24,000 円	3 人 × 2 h × 8 回 × 500 円
	市民ITカフェ開催	12,000 円	2 人 × 2 h × 6 回 × 500 円
	アイデアソンまたはハッカソン開催	32,000 円	4 人 × 8 h × 2 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
	合 計 (A)	92,000 円	